

トレーシングレポートの記載内容とその後の経過に関する現状調査

株式会社クリエイティブ・ディー クリエイト薬局旭二俣川店
○松本光司, 川上ありす, 奥富彩乃, 牛来瑠菜, 松永佳子



背景

当薬局は神奈川県横浜市旭区に位置し、主に近隣3病院との薬業連携により外来がん化学療法の質向上に取り組んでいる。現在、外来がん治療専門薬剤師2名が中心となって、テレフォンプォローアップにより患者の状況確認を行い、トレーシングレポート(以下、TR)を用いて医療機関への情報提供を行っている。

目的

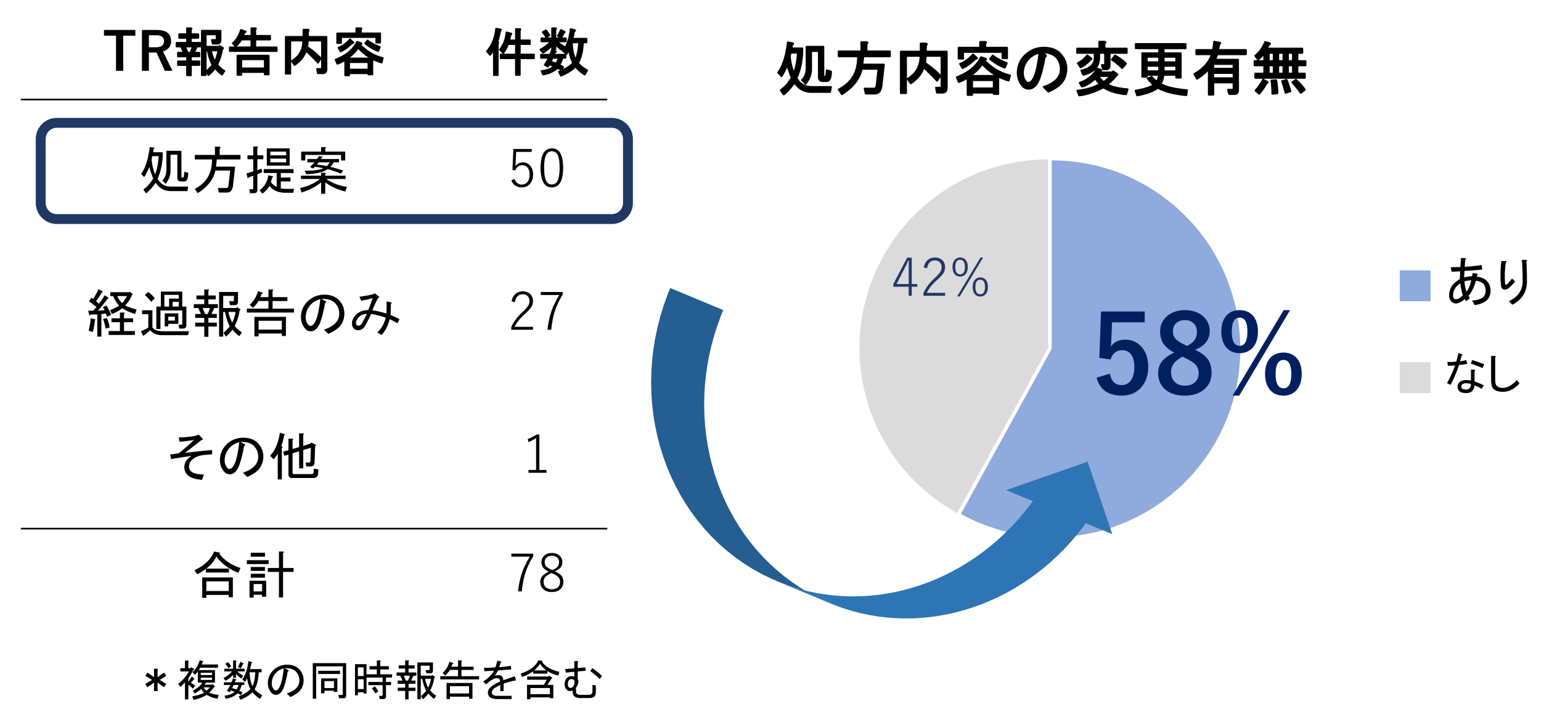
薬業連携が推進されている中で、保険薬局薬剤師としては治療の質向上のためにTRを活用した患者支援が必要であるが、TR作成に対し抵抗があることも少なくない。今回、TRでの処方提案とその結果について調査することで、保険薬局薬剤師としての介入意義について再度検討する。

方法・結果

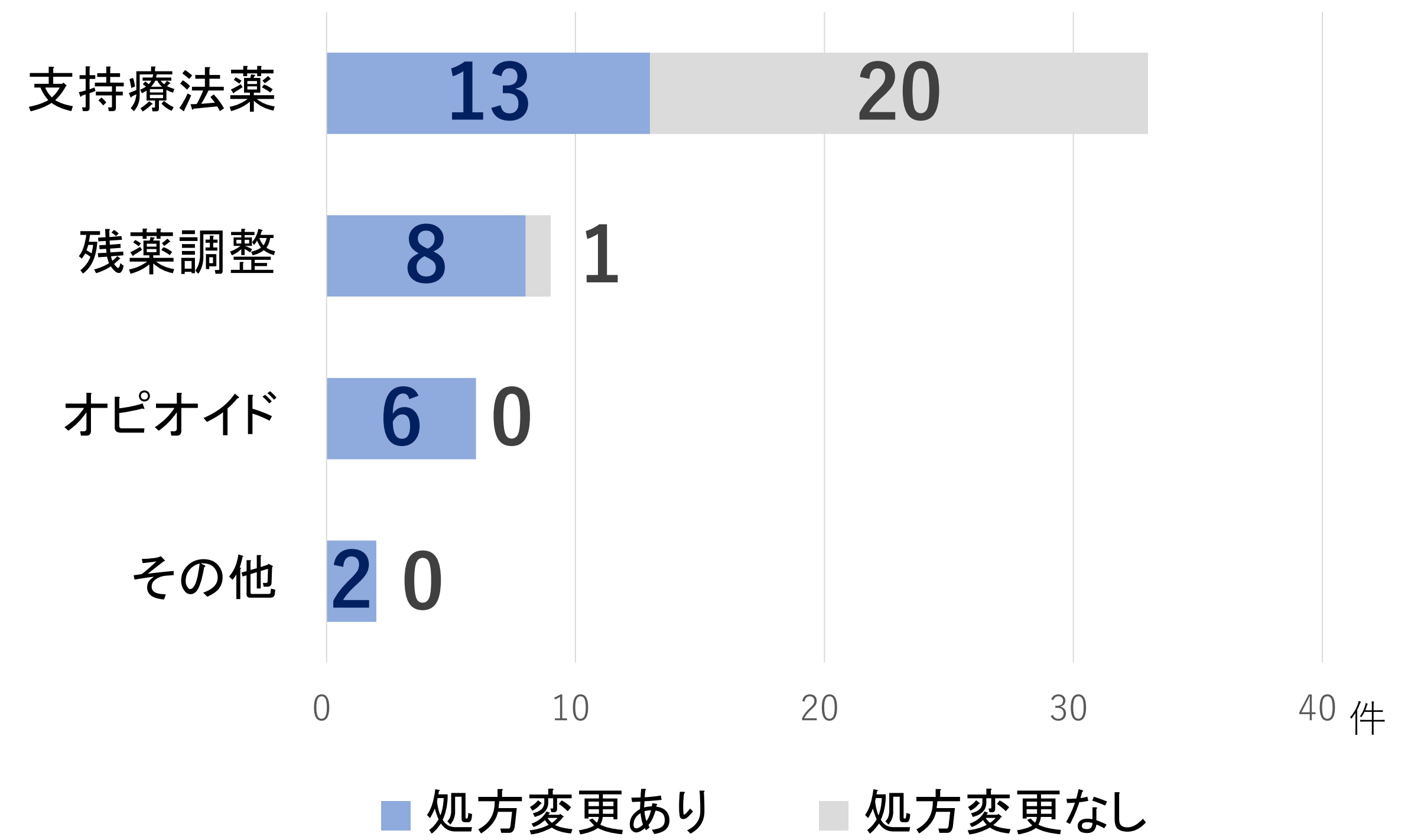
- ◆ 対象: クリエイト薬局旭二俣川店から2021年9月~2022年10月の間に提出したTRのうち、提出後に患者が来局し経過を確認することができた70枚
- ◆ 調査項目: 報告内容、処方提案がされた場合は処方変更の有無について、提出したTRと処方箋をもとに後方視的に調査した。

<患者背景> n=27

がん種	使用抗がん剤	同一患者でのTR提出回数
大腸	アナストロゾール ERI	1回 12
乳	アベマシクリブ+フルベストラント GEM+nab-PTX	2回 6
膵	イマチニブ HER+S-1	3回 1
肺	オシメルチニブ IRIS(+BV)	4回 3
胃	カペシタビン PTX+CBDCA	5回 3
腎	スニチニブ Pmab+FOLFIRI	8回 1
肝	タモキシフェン S-1	10回 1
卵巣	パルボシクリブ+レトロゾール SOX	
GIST	Atezolizumab+BV UFT	
	CAPOX XC	
	EC *レジメン変更含む	



処方提案の内訳と処方変更の有無



- がん種、使用抗がん剤に限定せず介入は可能
- 提出したTRのうち処方提案を行った割合は60%
- TR提出後、処方内容に変更があった割合は58%
- 処方採択率は支持療法薬で43%、オピオイドで100%と内容により偏りあり
- 処方変更による患者への健康被害はなし

考察・今後の展望

✓ 内服抗がん剤だけでなく点滴抗がん剤使用患者に対するTRも多くみられた。
⇒ 病院からの情報提供によりレジメン把握が可能となりフォローアップしやすくなっているのではないかと考える。今後も薬業連携による情報共有、特に点滴抗がん剤に対する保険薬局薬剤師の知識向上が必要である。

✓ 経過報告のみのTRも一定数みられた。
⇒ 具体的な処方提案がなくとも患者の現状を把握し知り得た情報を共有することは治療をサポートしていく上で保険薬局薬剤師として重要な役割の一つであると考えられる。

✓ 処方提案の半数以上、そのうちオピオイド関連では全例で処方変更につながった。
⇒ TRが安全かつ適正な治療に寄与している結果と考えられる。今回においては、オピオイド使用患者との良好な関係が構築できており詳細な聴取が可能となったため、より適切な処方提案へとつながったと考える。薬業連携によるサポート体制とその有用性については患者に伝えていく必要がある。

⇒ TRに対する返答は現状処方箋から読み解くか患者から聴取するほかなく、処方提案が採択されなかった理由について不明なことが多い。適切な処方提案ができるよう病院からフィードバックする機会などを設け、共通認識を構築していく必要があると考える。

利益相反開示事項
所属: クリエイト薬局 旭二俣川店
筆頭発表者: 松本光司
私は本演題発表に関連して、開示すべき利益相反はありません。